国立国会図書館蔵『浜松中納言物語目録』の依拠本（一）

赤迫　照子

A Study on "Hamamatsu Chunagon Monogatari Mokuroku" in the Japan National Diet Library

Shoko AKASAKO

はじめに　―彰考館蔵村上真澄校本について―

国立国会図書館には江戸時代の蔵書家小山田与清（高田与清とも。天明三年〈一七八三〉～弘化四年〈一八四七〉）の『群書捜索目録』の一つ、『浜松中納言物語目録』（以下、『目録』）写本が所蔵されている。『目録』が依拠した本文系統については、既に中西健治氏「浜松中納言物語　語彙・語句研究の初期―「目録」「類標」をめぐって―」[1]にてD類／乙類第三種本[2]との指摘がある。稿者は『目録』の翻刻を行い、中西氏の御論に導かれつつ小松茂美氏『校本浜松中納言物語』（二玄社　昭39。以下、『校本』）と照合したところ、確かにD類／乙類第三種本との符合を見出すことができた。[3]この成果は平成二十～二十二年度科学研究費補助金基盤（C）代表者西本寮子氏「『とりかへばや』伝本の流布状況を視点とした江戸時代における物語氏享受の研究」報告書の、「国立国会図書館蔵『浜松中納言物語目録』翻刻」（三七～六〇頁）で述べている。また、別稿にて本居宣長が入手した『浜松中納言物語』写本がD類／乙類第三種本であり、本居学派によって転写が繰り返された状況を指摘した。[4]その後、D類／乙類第三種本の調査を進めたところ、『目録』依拠本にまつわる新たな知見を得たので前掲の報告を改稿し、修正・加筆したい。

国文学研究資料館には水戸彰考館蔵本二点のマイクロフィルムが所蔵されている。一点はA類／甲類本（四巻四冊。資料番号「已／四」。外題・内題とも「濱松中納言」）で、『校本』「諸本解説」（三八頁）に記載がある。この本は、岩波日本古典文学大系（松尾聰氏校注　昭39）・『浜松中納言物語』（久下晴康氏編桜楓社　昭和63）巻一～四、小学館新編日本古典文学全集（池田利夫氏校注・訳　平13）巻一・三・四の底本に使用され、巻一～四の影印が笠間影印叢刊（池田利夫編　昭和47）から出版されている近世初期の善本の、国立国会図書館蔵榊原芳埜旧蔵本とは兄弟関係にある。

もう一点は、水戸藩第九代藩主徳川斉昭（寛政十二年〈一八〇〇〉～万延元年〈一八六〇〉）の蔵書印「潜竜閣蔵書記」が存する、村上真澄校本である。四巻四冊。資料番号「重38」。第一冊表紙見返に「天保六未年十一月村上真澄一校畢」、巻四の末尾にも「天保六未年十一月村上真澄一校」の奥書がある。そして、巻一第一丁表には「与清按此物語蓋缺首巻」の書入があり、小山田与清との関わりが認められるのである。

外題は「濱松中納言物語　壹（弐・参・肆止）」、内題は「濱松中納言殿物語　壹（二・三・四）」。この「濱松中納言殿物語」という特徴的な内題は、本居宣長が入手した写本に元々あった内題であるらしく、本居宣長記念館蔵本居春庭筆宣長筆奥書本（四巻四冊　奥書は安永十年辛丑三月十四日）もそのまま有しており、そしてその後、本居宣長記念館本は本居学派内で盛んに書写されたため、本居学派の書写本は基本的にはD類／乙類第三種本で、内題「濱松中納言殿物語」を有する。[5]

二〇一六年一月七日（受理）

赤迫　照子　　宇部工業高等専門学校一般科准教授

また、中西氏は『目録』を精査され、依拠本は巻一約105丁、巻二約66丁、巻三約78丁、巻四約86丁だと推定されたが、彰考館蔵村上真澄校本はまさに同じ丁数である（厳密には巻三77.5丁、巻四86.5丁）。

他系統との関連も見出せる。第一冊遊紙裏には『無名草子』の一節、

無名草紙にみつのはま松こそねさめ狭衣はかりの世のおほえはなかめれとことはつかひありさまをはしめなにこともめつらしくあはれにもいみしくもすへて物語をつくるとならはかくこそおもひよるへけれとおほゆるものにて侍れ云々

が書かれているが、F類／乙類第一種本である天理大学図書館蔵百井為衡筆本（四巻四冊　内題「濱松中納言物語」）にも同じ書入がある。[6]『無名草子』の書入に続く書写奥書（第四冊34ウ）の、「濱松中納言物語四巻本居宣長校合之本借ゑて写之　天保七年七月廿日　百井為衡」により、百井為衡が本居宣長記念館蔵本の流れを汲む本を入手し、書写したことは明らかである。

なお、『彰考館図書目録　附焼失目録』（大正6）には「濱松中納言物語」四巻四冊本が二点掲載されている（五〇七頁）。どちらにも与清旧蔵書を示す「小山田本」の記載はない。おそらく、これら二点は前掲国文学研究資料館蔵マイクロフィルムに収められた二点と同じものである。

一、『浜松中納言物語目録』翻刻

小山田与清が蔵書を水戸彰考館に献上したのは弘化三年（一八四六）である。『群書捜索目録』も献上書の一つであったが、太平洋戦争の戦火で失われてしまう。国立国会図書館以外に、東京大学が『群書捜索目録』の写しを所蔵していたようだが、こちらも関東大震災で灰燼に帰している。国立国会図書館蔵本が唯一、与清の『浜松中納言物語目録』を伝える本である。

献上の際に作成された目録の、早稲田大学図書館蔵『松屋蔵書目録』（弘化三年、水戸藩豊島源次郎写。徳川斉昭旧蔵、後に与清子孫の高田早苗が所蔵）には「浜松中納言物語　四」（第一冊25オ）「浜松中納言目六　一」（第二冊34ウ）の記載がある。[7]与清の活発な書写活動からして、自身で物語本文を書写し、その自筆本を依拠本にして『目録』を作成したと考えるのが妥当であろう。そして、せっかく献上するのであれば、『目録』と、『目録』記載の巻数・丁数が符合する物語写本を併せたのではないだろうか。

前掲の彰考館蔵村上真澄校本と様々思い合わせることがあるが、まずは、『目録』本文の翻刻を以下に掲げる。

【凡例】

一、底本は国立国会図書館蔵小山田与清編『浜松中納言物語目録』（群書捜索目録第三十五冊　請求記号112—95　墨付本文は98丁）。国立国会図書館蔵マイクロフィルムの紙焼写真による。ただしレイアウトの都合で原資料の行数・文字数を変更した。

一、題簽題・扉題等、全て墨書による。

一、改行の箇所には／を記す。丁が変わる箇所には　**1オ**」のように丁数をゴチック体で記し、その後に閉じ鉤括弧（」）を記した。

一、踊り字は「ゝ」「〳〵」「〴〵」に統一した。合字（〆）は「コト」と表記した。

一、不審箇所や誤写と思しき箇所には適宜、（ママ）表記を記す。

［題簽題］（群書捜索目録）濱松中納言物語目録　全

［扉題］　濱松中納言物語目録　全

［本文］

伊

色なる御心　三ノ卅二ウ／色あはひ　三ノ四十一オ／いろ〳〵うつ（ママ）ひわたれる木々の花　一ノ九ウ／いろかたち　二ノ十一オ／いろかたちもかはり　一ノ廿八ウ／いろのほど　四ノ四十一ウ／いろめかしき　四ノ八十四オ／いはの上のためしをたのむ事にて　三ノ九十六オ／いばへたるもの　いばへはすはへの誤歟　一ノ二オ　**1オ**」いはのたゝすまひ　一ノ九ウ／いにしへは十二年をすこしてのみ社かへりけれ　一ノ七十一オウ／いほり　庵　一ノ卅オ／家との人出て見さわく　一ノ二ウ／いとゝしき心ち　三ノ九ウ／いちと　一度　四ノ六十七ウ／一の后　一ノ十四ウ／いちしるき給し　（同ノ五十五オ）／一の大臣　一ノ十四ウ　同ノ廿九ウ／入あひの鐘　四ノ八十六ウ　**1ウ**」入あひの鐘の聲　三ノ十六ウ／入ぬる磯のこゝち　三ノ六十八ウ／入江の水うみ　一ノ二オ／犬の聲する所　一ノ廿六ウ／いかに成ぬへき身ならん　一ノ卅七ウ／いかだ　おろす—　三ノ四十五オ／いかりの心をなし　一ノ十五オ／いかなるふしもかな　一ノ廿三オウ／いかさまなるわさをせん　一ノ四十九オ／いたゝきをさせ奉らん　餅を也　四ノ五十八ウ　**2オ**」いたずらになりなんずる　一ノ五十一オ／いたゞき　四ノ十七オ　四ノ卅一オ／いだしいれてみん　一ノ廿七オ／いだしたり　一ノ七十一ウ／いたゝきもちひ　四ノ五十八オ／いたゞかせ　餅を也　同ノ同／いれませ　入交　三ノ廿九オ／いれに入る　一ノ卅三ウ／五といふ年　一ノ十四オ／いつとなく　一ノ卅一オ　**2ウ**」いつこのたよりかは侍らん　三ノ三オ／いつきかしつき　一ノ廿八ウ／いつをいかにとたのむ　二ノ六十オ／五重の扇　四ノ十七ウ／五つら五列　三ノ四十八オ／五にあたるむすめ　一ノ廿八ウ／いづみかうち　和泉河内　三ノ十七ウ／いつしか　一ノ三ウ／五重の扇　二ノ四十四ウ／一（ママ）けの宮と申人　三ノ四オ　**3オ**」いなとてにけいづ　一ノ卅四オ／いうにもおはするかな　一ノ六ウ／命のなかにこそ誠のひじりは無常菩薩をとりけ

れ 四ノ卅七ウ／命たえてなくは 一ノ廿五オ／いのりまつはるゝけに 一ノ十六ウ／いくらも〳〵 二ノ卅八オ／いくほとのとし 二ノ一オ／今ゆくすゑ 四ノ十二オ／今一日 一ノ卅六ウ／池の中嶋 一ノ百三ウ **3ウ**」いふ事いできて 一ノ廿三ウ／いぶせからまし 一ノ六オ／いでたちや 辿 一ノ九十二ウ／いでや 一ノ六オ／出はなれ逃かくれ 二ノ九オ／いであなあやし 四ノ十三オ／いざしらす 二ノ七オ／いさめむづかり 二ノ五十二ウ／いさなひ 三ノ四十五ウ／いさなひたる 二ノ十七ウ **4オ**」いさゝか 一ノ十ウ 四ノ廿九オ／いざよはゞ諸ともに 三ノ廿一ウ／いきほひいみしく 一ノ卅オ／いきつきし 行忌 二ノ廿三ウ／いきめぐらい 三ノ十一ウ／いみしきめをも一かたならす見るへきかな 四ノ十五ウ／いみしうおほゆるかたさまの人 一ノ廿三オ／いみしかりける世の人 一ノ八ウ／いみしうかたきものをいませ給へし 一ノ卅七ウ／いみ 忌中也 四ノ十八オ **4ウ**」いみしき事共いてきて 一ノ十五オ／石山のをり 石山詣の折也 一ノ一オウ／石のたゝすまひ 三ノ十八オ／いひしらす 一ノ十三ウ 一ノ八十七ウ／いひすごし 過云 二ノ五十ウ／いひあはせ 三ノ四十六ウ／いひにくむ 一ノ十一ウ／いひかよはさるゝ事 一ノ十三オ／いひかけたれは 一ノ十二オ／いひなし 一ノ廿ウ **5オ**」いひなだめ 二ノ廿八ウ／いひあざみ 三ノ四十八オ／いもうと 四ノ七十九オ／いもせとおもひ 四ノ卅九オ **5ウ**」

呂

ろうたい 樓臺 二ノ百三十六オ 又同 **6オ**」

波

母うへ （同ノ百廿八オ 同ノ七十二オ／はゝからはしう 三ノ八オ／母しろ 二ノ五十四ウ／母にものし給ふ人 一ノ九十七オ／母とつけてよるも只ふところにのみね給ふ 四ノ五十一ウ／はよといふものぬりたるやうに 一ノ十ウ／はちすのうゑ 三ノ四十一ウ／はぢしらひ 三ノ四十一オ／はりせしむ（ママ）といふとといふとも 御色の白さは— 一ノ十ウ **6ウ**」はるかになり 一ノ廿四ウ／春ごろ 四ノ四十四オ／春やむかしのとのみおもひまがへ 一ノ廿五ウ／はかゞしからぬ身 一ノ廿ウ／はかま着 二ノ五十一ウ／はたかくれそばみ 一ノ十二オ 四ノ四十五オ／はた 水の— 一ノ卅九オ／はつかし 一ノ七ウ／はつれたる女房などのけはひ 四ノ八十一ウ 同ノ八十二オ／八尺御くしをかきたれて（ママ） 四ノ五十六ウ **7オ**」はなれゐて（ママ）／花のにほひ（ママ）／花のにほひにも立まさりて（ママ）／はなをけごしける人（ママ）／花のいとおもしろきおして遊はるゝなるへし 一ノ九ウ／花もみちをもてあそひ 四ノ十二オ／花山といふ山 唐の地名 一ノ一ウ／はらまれ給ひ 三ノ五オ／はんかくといひ侍りける人 潘岳 三ノ六十二オ／ばん 番 三ノ十七ウ **7ウ**」方便 三ノ廿九ウ／はう たつみの— 一ノ九オウ／はくとくちのいけ 八功徳池 三ノ五十三オ／はくふ山ふかし鳥ひと聲 一ノ二オ／濱のまさこの数よりも増り 二ノ廿九ウ／はや舩さしはやし 二ノ三ウ／はやし 四ノ六十三オ／はげしき山のふところ 四ノ五十オ／はげしき事 一ノ一ウ／はけしく 一ノ六十四ウ **8オ**」はふらかし 三ノ廿三ウ／箱崎の松 二ノ廿七オ 同ノ廿六ウ／はかう行はせ奉り 三ノ五十二ウ／はてつかた 四ノ廿三オ／はしたなめられ 一ノ廿二オ／はし近（チカ） 四ノ四十五ウ／柱ごとに火ともしわたして 一ノ卅四オ／はしたなめ 一ノ六十オ／はひにまかへる心ち 一ノ六十六ウ／はすゑのけしき 一ノ五オ **8ウ**」

仁

二人の后十人の女御かたより給 一ノ十五オ／鳰の海 四ノ六十九オ 一ノ一ウ／にほひをちらし 一ノ八十一オ／にほひにもたち増りて 二ノ四十四ウ／にほひみち 三ノ十四ウ／にほひやか 四ノ四十二オ／にほひかをりて 一ノ十ウ 同ノ廿六オ **9オ**」にほへる 一ノ四オ／女官どものつかさ 二ノ四十七ウ／女わうの君と申人 一ノ八十三オ 同ノ八十五オ／にんし給 妊 四ノ四十三ウ／にげかくれ 二ノ九オ／にけいづ 逃出 一ノ卅四オ／にふ色 鈍色 四ノ五十九オ／濁りおほかる世 三ノ十五オ／二さうの人 一ノ廿一ウ／錦の丁 一ノ卅一オ **9ウ**」にしきをしけるえん 一ノ九オ 同ノ十オ／西へ行月 二ノ五十ウ／廿一日にて方違ふへかりけれは夕つかさ出給ふ 四ノ八十六ウ／錦のひらはり 一ノ六十一オ／錦のへりさしたるみす 一ノ九オ／にひ色の御ぞ 三ノ廿八ウ／鈍色 二ノ四十五オ **10オ**」

保

ほろ〳〵となく 一ノ廿四ウ／ほろ〳〵とこほれて 一ノ五十二ウ／ほろ〳〵とうちなき 一ノ六十七オ／ほほゑみ 一ノ七ウ 同ノ六十一ウ／仏いみしうけんし給 一ノ卅六オウ／仏なとのへんし給へる 二ノ十一ウ／ほかげ 火影 一ノ卅四ウ／ほかの世 他国を云 二ノ二オ／ぼだいじといふ寺 一ノ卅六オ **10ウ**」本たい（ホン） 実相の事ヲ云 四ノ卅一ウ／細殿 四ノ四十二オ／ほんたいもしらぬ国 一ノ四十七オ／ぼんぶ 凡夫 四ノ六十三ウ／ほんたいの后 又本躰 一ノ十三オ 三ノ三ウ／ほうかでんといふ所 一ノ六十二オ／ほかち（ら） （※稿者注 左見セ消チ）いとうの月 三ノ六十オ／法師あま 髪剃たる尼歟 四ノ四十四ウ／ほのほ 三ノ五十七ウ／ほくゑ経をよみ 一ノ十八オ 同ノ五十一オ **11オ**」ほけつきたうとけ 法気付也 （同ノ四十三五オ／ほけつきてもてなし給 四ノ五十五ウ／ほけ経まん部 四ノ七十四オ **11ウ**」

邊

へりさしたるみす 一ノ九オ／へん おとゝの— 辺 一ノ六十九ウ／へんけんの子 一ノ六十九ウ／へんけのもの 二ノ二オ／へんじ給へる 仏なとの— 二ノ十一ウ **12オ**」

登

とはずがたり （同ノ七十九ウ 三ノ七十二オ／とほ〳〵しう 一ノ九十六ウ／とほ目 一ノ廿六オ／遠き国の人ゝ 一ノ八オ／とほ山鳥 一ノ六十三オ／遠くより風の吹ちらす匂ひ 一ノ廿六オ／とゝこほりなく 二ノ八ウ／とゝこほらす心ひたち 三ノ卅三ウ／とぢめ 四ノ九オ **12ウ**」とちむる 一ノ百一オ／とちこもり 四ノ廿五オ／とちこもりたる山 三ノ廿オ／鳥の聲にいみしう似せてはるかになき出 一ノ二オウ／鳥は林と契れり林かれぬれは鳥といと面白う誦じ 四ノ廿二オ／鳥ひと聲 白霧山深し 一ノ二オ／とりところ 三ノ六十七オ／鳥けだものゝ中 三ノ廿二ウ／鳥のさえづり 四ノ廿二オ／とりせさせ給 執歟（シツ） 四ノ廿三オ **13オ**」鳥とならはとよるひる契りおほせらる （同ノ十七八オウ／とりもちて 四ノ廿二ウ／鳥の聲をきゝてなんあくるといふ 一ノ二オ／とりひろめたる筋もいでき 一ノ四十六オ／とよりかけ ひたひ髪— 一ノ十一オ／とうていといへる所 唐土

也 一ノ八オ／東はうさく 一ノ六十二オ／とのゐだつ人 一ノ四十六オ／とことせ（ママ）七八人 一ノ卅ウ／とこのうち 又同ノ六十八オ **13ウ**」所をさりて 一ノ卅七ウ／とてはなれかくて やむへきにあらす 一ノ卅五ウ／とされといふね 琵琶ノね 一ノ八十四ウ／ときめき 一ノ六ウ／ときやう 読経 一ノ廿八ウ／時めかし 一ノ十五オ／年立かへりぬるあしたの雪 一ノ廿五ウ／としよはひくらゐきはもまた浅はかに 四ノ六オ／ともこんすてうといふなる鳥 三ノ十二ウ／とせいの紅葉の賀 一ノ廿八ウ **14オ**」

知

ちかおとりする 四ノ六十五オ／ちか増り 四ノ六十六オ／乳なともきこしめさす 二ノ十一オ／ぢんのふみ箱 一ノ九十八オ 二ノ五十九オ／丁字染の薄ものゝうちき 三ノ廿八ウ／ちやうりといふ所 一ノ四十五オ／ちやうり 一ノ八十三オ **14ウ**」丁のかたひらすこし巻あげ 一ノ卅四オ／ちやうりといふ所はひのもとの西の京也 一ノ四十六ウ／乳まゐらせんかはりに此薬をくゝめ 二ノ一ウ 同ノ二オ／ちご姫君 二ノ五ウ 同ノ六ウ／乳あゆる人 一ノ七十ウ／契のえだ 一ノ六十三オ／契りをむすひ聞えさせけるえんの深かりける 四ノ十一ウ **15オ**」

利

李夫人 三ノ六十一ウ／りうとうげいすの船 一ノ六十一オ／りうわう 龍王 一ノ十三ウ 同ノ十四オ **15ウ**」

奴

ぬりかへしたるやう こんじやうを— 一ノ九オ **16オ**」

留

るくひるはにといふ物ぬりたるやうに／るくいくりの誤歟 一ノ十ウ **16ウ**」

遠

をはりの折 四ノ十一オ／を花の末のやうに 二ノ廿一オ／をにたつや山のかひなる朝霧 一ノ六十八ウ／男かけ それ斗を—には見給ひつゝ 三ノ廿四オ／男なるひじり 四ノ廿二ウ／をちのはや舟さしはやし 二ノ三ウ／をかしううちわらはれて 一ノ卅二ウ／をだまき 三ノ卅五ウ／女かよはぬ道 三ノ四ウ **17オ**」をこづり 二ノ四十三ウ／をこなるやうに侍 一ノ廿ウ／をさなく 一ノ廿五ウ／をしむ手なくつくさん 一ノ七十六オ／おひ甥 二ノ十六ウ／をすへさせ給 せ給歟 一ノ廿八ウ **17ウ**」

和

わろびたる世をありわつらひ （同ノ廿四オ）（同ノ廿三ウ）／わりなう 一ノ六十四オ／わりなき 一ノ四十四オ 同ノ九十七オ／我よの人 我国の人を云 一ノ十二オ／我といひ出へき方なく 四ノ四十二ウ／わか世 一ノ廿七ウ／わかまゝ 一ノ廿九ウ／わかれの宴 一ノ七十五オ／わか方さまに 一ノ十一オ **18オ**」我か人か 四ノ十四オ／わかやかなる聲 一ノ十一ウ／わが世 我国ノ方 一ノ十九ウ／わがまゝ 一ノ卅二オ／わか世の人には物遠く 一ノ十九ウ／わたくし物 四ノ六十ウ／わたる 御ともに— 一ノ二オ／わたつうみの底に道のそらにて（ママ）— ／わたくしの我身のたいじの事 三ノ卅一オ／わたくしにしのひたる事 一ノ七十ウ **18ウ**」われとほろ〳〵となく 一ノ廿四ウ／王照君 三ノ六十一ウ／わらはやみ 四ノ八十二オウ／わうかくしやうのゐけるかうそう 一ノ三オ／わけめかんさし 髪の分目也 四ノ十五オ／和琴 二ノ十八オ／わきかへり待うけたる岩のたゝすまひ世の常ならす 一ノ九ウ／わし（ママ）しゆ（ママ）といふ人 一ノ卅八オ／わするべう 一ノ六十四オ／わすれかたみ 二ノ四十三ウ **19オ**」

加

かいまぎれ 三ノ四十オ／かいなでの人 二ノ十九オ／かいはみうかゝへと 一ノ四十二ウ／かいなで 四ノ五十七ウ／かはす 一ノ九十三ウ／かはしけり契りのえだ 一ノ六十三オ／かはい かはし也 一ノ九十二オ **19ウ**」かばかり（ママ）／髪はすこし色なるが筋も見へずこま〳〵とひすゐ／なといふやうに 二ノ廿ウ／髪あげうちはさし 一ノ卅四オ／かほのやうだい 一ノ十オ／顔をうつしとりたるやう 一ノ六十九ウ／顔ひき入 四ノ十五オ／顔かたち 一ノ十三オ／顔の色もたかふ心ち 一ノ七十六オ／顔にかほをあてゝ泪をおとしかけ 四ノ十六オ **20オ**」顔のやうたい ほろ（ママ）くもあらすふくらにもあらす 一ノ十オ／顔に袖をまきらはして打なき 四ノ八十六オ／顔に水をいさゝかかけ 四ノ十五オ／かちさとし 一ノ七オ／かへり見がち 三ノ十九ウ／かりそめの外の人 一ノ四十七オ／かりそめの所 一ノ四十五オ／かりそめの人 一ノ廿七オ 同ノ卅三オ／かりのみありき 二ノ六十五ウ／かるらか 三ノ四十二オ **20ウ**」かるむる事 一ノ五十二オ／河にそひたる山 一ノ四十オ／かゞやく 一ノ廿九ウ／かゝやくばかりに 一ノ三オ／かゞやかしからす 四ノ十三オ／かゝらぬくまなく 四ノ卅一オ／かゝれる髪のかんざし 四ノ五十九ウ／かよひぢ 三ノ七オ／かた時 （一ノ六ウ）（四ノ廿三ウ） 同ノ四十三オ／かたき御物いみ 一ノ卅八オ **21オ**」かたはらめ 二ノ四十四ウ／かたは 一ノ卅二ウ／かたはら かたはらめと云と同し 一ノ四十一オ（ママ）／かた紋の織物の狩衣 四ノ卅三ウ／肩をならぶる人出きぬめり 四ノ卅八ウ／かたき有さまよき人 一ノ七十四ウ／かたより給つゝ 一ノ十五オ／かたふきおほさるゝ 一ノ六十ウ／かたちをかへ 一ノ五ウ／かた人に成て 四ノ五ウ **21ウ**」かたつかたの心 三ノ七オ／かたかけて 三ノ十二オ／かたさま 一ノ廿三オ／片しく袖なからなん狩寝かちにて夜をすこす 四ノ六十四オ／かたらふといふ事出来て 一ノ廿三ウ／かため 一ノ九十四ウ／かたはらさしおかれて 三ノ四十一ウ／かね 昔今の事を— 一ノ六十五オ／かなつゑつきて花を見あげ 一ノ卅九ウ／かなしみの心の題いだし 一ノ七十七オ **22オ**」かなしかる 一ノ百四ウ／かなしひおぼいたれど 三ノ三オ／からの薄紫のかみ 一ノ百二オ／唐のしきし 二ノ五十九オ／からくみのひほ（ママ） 一ノ十オ／からゑ 一ノ十オ／からくにといふ物かたり繪 一ノ二ウ／かんさしして髪あけ 一ノ十一オ／かんすといふ手を引出たる 琴の手也 一ノ八十ウ／かんざし 二ノ廿一オ **22ウ**」かんたちめ 一ノ廿七オ／かんさしなとのおと 三ノ四十四オ／かんつけの国のかみ 四ノ廿三ウ／かんこくのせき 一ノ二オ／かんざし 一ノ六十八オ／かんかへ申 申歟 一ノ四十九オ／かうさび 神さひ也 一ノ卅九ウ／かうでおはす 一ノ四十一オ／香染 二ノ四十五オ／かうのからひつ 三ノ廿八ウ **23オ**」かうしうといふ所 唐也 一ノ一オ／かう〳〵と申 一ノ八十三オ

／かうそう　一ノ廿九ウ／かうち　河内　三ノ十七ウ／かうやうけんといふ所　唐地名　一ノ四ウ／かくのほさつの位にとく定り給かりの事共おきてさせ給　四ノ十八オ／かくいふ　哥を云　一ノ七オ／かくれはみて　四ノ六十四ウ／かくしのゝしる　一ノ卅ウ／かまへて　一ノ四十ウ　**23ウ**」影のやうにてはなれ侍らぬ　四ノ廿五オ／かけ給はぬ　一ノ六ウ／かけぢ　山の― 三ノ七十ウ／かけをならへし人　一ノ一ウ／かげろふ　三ノ十オ／かせおこりてなやみ給ふ　三ノ卅五ウ／かざりする゛られ給へる御おほえ　三ノ六オ／かざられたる　一ノ九オ／かざまもまたず　風間也　船に云　二ノ三ウ／かきり　木の― 一ノ廿六オ　**24オ**」かきうつろひ　四ノ廿四オ／かきかねの穴をさへふたきて　一ノ四十六オ／かきませのきは　三ノ卅八ウ／かきたつべきかたもおほえ侍らす　一ノ十二ウ／かきりある命といふともけふ迄もめくらさらまし　四ノ八十オ／かきりなくおもひたれど　一ノ六ウ／かきうつろひ　三ノ四十九ウ／かきたれ　四ノ五十六ウ／かきまさくり　三ノ七十七ウ／かきつくろい給　二ノ八オ　**24ウ**」かきりのわかれ　一ノ十七オ／かきりの人　一ノ八ウ／かしこき人　一ノ六十五オ／かみ　守也　二ノ卅四ウ／かみあげ　一ノ九ウ　同ノ十ウ／髪たゞ（ママ）たれひたひ髪とよりかけ　一ノ十一オ／髪のつやさかりば　四ノ卅ウ／神にことふれ　一ノ六十二オ／上の十日　一ノ一オ／かしつきあつかはれし　一ノ七十ウ　**25オ**」かしこきおんみやうし　一ノ卅七ウ／かしつかれ　一ノ六十一ウ／かしらをつとへて見あひ　三ノ廿九ウ　同ノ卅オ／かしこう思ひつゝむ　一ノ百オ／かしこういうにもおはするかな　一ノ六ウ／かしらもたけ　四ノ廿七ウ／かしこう　一ノ十八ウ／かしこうかまへて　一ノ四十六ウ／かひな　四ノ十三ウ／風にくだけ　三ノ七十五オ　**25ウ**」風のおとなひ　二ノ六十三ウ／風のつて　一ノ十九オ　二ノ五十九ウ／風などに社はあらめ　風邪を云　四ノ七ウ／風にしたかふ春柳のけしきして　四ノ四十六オ／風にしらせんをしげに　見えわたさるゝ　三ノ一ウ／風のたより　一ノ九十七ウ／霞のたゝすまひ　三ノ十四ウ／かすか　三ノ六十五オ／かすかなるありさま　四ノ十四オ　**26オ**」

与

よろしからんやは　四ノ八十三オ／よろしやかなる御さま　三（ママ）廿二オ／よろこひなき　二ノ廿八ウ／よろしうなる　一ノ廿九オ／よろしき人たにえ見ぬものにならひ　三ノ七十オ／悦なき　二ノ四オ／よろづ　一ノ六オ／よにすぢかひ　世の人に違ひ也　四ノ卅八オ／よにはしたなめられありわひて　一ノ廿二オ　**26ウ**」よにめくらさらまし　二ノ六十五ウ／世にたくひなきかたちの名をとゝめ　一ノ四オ／よりつかず　二ノ十九ウ／よるをひるになし　二ノ三オ／よるのとまり　四ノ六十一ウ／よるの昼のと　二ノ九オ／よるの枕に夜をへだてん　四ノ五十三ウ／世をかりそめに思ふ　一ノ卅三オ／世がたり　三ノ五十八ウ／よづかず　三ノ九ウ　**27オ**」よつかぬ事　一ノ卅三オ／よつかぬ御心　一ノ十九オ／よなれたる人　三ノ卅七オウ／夜中ばかり　一ノ二オ／ようだい　一ノ十オ／ようめい　容面　三ノ六十二オ／よういし給　一ノ三オ／よの常の子ともよりもおとなしくおはして　一ノ十七オ／世中いみしく心ほそく　一ノ十八オ／世のつきぬるとおもひ　四ノ七ウ　**27ウ**」世の常びたるすまひ　三ノ七十五オ／よの常び　びはぶり也　めき也　三ノ四十二ウ／よの常ざま　四ノ卅三オ／世のみたれ　一ノ十八オ／夜ふかい給　四ノ六十五オ／よこ目せし　外を思はぬ也　四ノ四ウ／よこめなくありつき　三ノ三十一ウ／よさり　一ノ四十五オ　同ノ四十六ウ／よめ　夜目　三ノ十五ウ／よしなかるへきわさ　一ノ四十六オウ　**28オ**」よしのゝ山と名になかれたるよりも猶おく／なるみよしのといふ所　三ノ一オ／よしのゝ山　三ノ六十九オ／よしの山　二ノ六十四ウ　四ノ六十五オ／よしのゝあなたにみ吉野といふ所　二ノ六十四オ／よし〳〵しう　二ノ四十一ウ／よしなき事　一ノ二ウ　同ノ九十七ウ／よしなう　二ノ六十二オ／よしばむ事　四ノ卅ウ／宵暁のせんほふあみた経なとよませ　四ノ八オ　**28ウ**」よびよせ　四ノ九ウ／

太

題を出してふみをつくり　一ノ四オ／内裏の承願天といふ所　一ノ三ウ／谷深く　一ノ一ウ／たとしへなく　四ノ五十八ウ／立きゝかいはみ　四ノ八十一ウ／たちまち　一ノ四十オ　**29オ**」立帰りにもと思ともおのつから日比ふる事も侍なん　二ノ六十四ウ／立かくれてみれは　一ノ九オ／たをやかになつかしうやはらかに　一ノ十九オ／たをやかなる髪　四ノ十七オ／たゝがほ　只顔　四ノ卅六オ／たゞよふ　一ノ九十三ウ／思いれに入る　一ノ卅三ウ　**29ウ**」たゝすまひ　一ノ五オ／たゝなかりたる　四ノ十三ウ／たづきすべなげ　三ノ廿オ／尋とらせ侍らん　二ノ六十四ウ／たつきもしらぬ山おく　四ノ十六ウ／尋しらせ給へ　一ノ卅三ウ／たらず　おほし― 一ノ十五オ／たつみのほう　一ノ九オウ／たらひたる　二ノ九ウ／たうくゑんと云水　桃源也　水ノ名　一ノ廿六オウ　**30オ**」たう　唐　三ノ四ウ／たのみかはす　三ノ卅九オ／たのみ所　三ノ廿六ウ／たのもしう　一ノ六オウ／たのもし人　四ノ七十六オ／たのめ事　二ノ八オ／たのめられたる　四ノ五十四オ／たやすく　三ノ十八ウ／玉のうてな　四ノ卅五ウ／玉ひかる女生れ給　一ノ十三ウ　**30ウ**」玉のかんさし　一ノ卅一オ／給はさんなり　同ノ同／竹の中より見付けたりけんかくや姫　四ノ六十オ／たけき事　一ノ九十ウ／たふとき事ともをいはせ　四ノ八オ／他国のかりそめの人　一ノ廿七オ／たえらくる　一ノ五十ウ／絶間なうおもひ　四ノ一オ／たえこもり　四ノ廿ウ／たきりてなかれ出たる水　一ノ九ウ　**31オ**」たて　ひたひの髪の― 二ノ廿オ／たきもの　一ノ六十六ウ／瀧高くおち　一ノ九ウ／ためらひ　一ノ九十四オ／ためし　昔の― 一ノ十五ウ／立めくるへき心ち　四ノ卅四オ／たしかにつけ　一ノ九十七ウ／たじろき　三ノ廿ウ／頼どころ　三ノ卅二ウ／たひらかにわたり　一ノ十四オ　**31ウ**」

礼

例なき事　一ノ九十八ウ／例さま　三ノ廿五ウ　三ノ七十五ウ／例ならずげ　四ノ七十五オ／れきやうといふ所　唐の地名　一ノ一ウ　**32オ**」

曽

そば〳〵しげ　四ノ四十六オ／そばへたるもの　一ノ二オ／そは目　一ノ七十九ウ／ぞとよ　云ゝ― 三ノ四十四オ／そよさら〳〵　三ノ卅九ウ／そゝろにはづかしう　一ノ七ウ／そゝろ寒く　三ノ廿八オ／そゝろ心　三ノ廿二オ／そねみうれへられて　三ノ六十オ　**32ウ**」そ

ねみ 一ノ十五オ／空にしめゆふ恋しさ 四ノ四十九オ／空おそろしう 一ノ四十八ウ 同ノ七十三ウ／そむきかほ 一ノ四十九ウ／そう 僧 一ノ卅六ウ／その又の日 一ノ八ウ／そくさん 一ノ五十オ／そまつにおろすいかだ 三ノ四十五オ／そこ清くおほしすまし 四ノ廿二ウ／そこらなる所 一八十三オ（ママ） **33オ**」そこ〳〵なる 俗にドコソコト云ニ同 一ノ四十五オ／そこらつとひたる大臣公卿 一ノ三ウ 同ノ四オ／袖のうちより生れ給へるやう 一ノ六十九ウ／そきやう 諸卿 三ノ六十二オ／そぎかけられたる 髪と云 四ノ五十六オ／そめきせんとて 二ノ廿二ウ／そびえてあてやかに 二ノ廿ウ／

川

ついたちころ 四ノ七オ **33ウ**」つばくらめのあらんわかれのやうにて 三ノ七ウ／罪いとおそろし 一ノ廿八ウ／罪えかましう 二ノ廿五オ 同ノ卅六ウ／つとこもりて 一ノ六十五オ／つどひたる 一ノ三ウ 同ノ四オ／つちいみ 土忌 三ノ卅二ウ／つかさ位をとられおほやけのつみにあたらん 四ノ十二ウ／つかはい給ひし人 三ノ十七オ／つかまつらん 四ノ四オ／つよくさかしき方 一ノ六十二ウ **34オ**」つよき所 一ノ六十二ウ／つらしみつくろひ 三ノ六十七オ／つらつきかたはらめ 二ノ四十四ウ／つら杖をつきてつく〳〵となかめいり 一ノ六十一ウ／つら杖をつきて 一ノ四十一オ／角なとおひたりとも 四ノ十七オ／つく〳〵となかめいり 一ノ六十一ウ／筑紫になかされ 一ノ十三オ／つくろひ 三ノ十八オ／つくさん ことを— 一ノ卅一オ **34ウ**」つく〳〵と（ママ）／つくらさしたるけしき 一ノ四十オウ／つく〳〵となかめいて 一ノ七オ 一ノ四十一オ／つくろふ事なく 一ノ卅二ウ／つくりさしたる 一ノ四十ウ／つくろひないたれは 三ノ七十一オ／作りかさられたる 一ノ卅オウ／つま近き橘 三ノ卅八ウ／つまのみすあげて 一ノ九ウ／つけて 母と— 名付テ也 四ノ五十一ウ **35オ**」つぶさなる事のむね 三ノ八オ／月のかほ 一ノ卅九ウ／月日のひんがしより出給ふを見つゝ 二ノ五十九ウ／月日の光をならへて見ん心ち 一ノ八十二オ／つきすへくもあらじ 二ノ卅六オ／つきまとはし 一ノ八十八ウ／月のかほ 四ノ七十一ウ／罪さるへきかた 二ノ四十五ウ／月のゆくへ 一ノ五十三ウ／つひのすみか 一ノ七十一ウ **35ウ**」

祢

ねちけたる所なく 一ノ十ウ／ねちけかましき 二ノ卅三オ 三ノ四十六ウ／ねぬよのすみか 二ノ五十一ウ／ねんすれと泪とまらす 一ノ五ウ／ねんぶつ 三ノ七十八オ／ねくたれて 四ノ六十七ウ／ねくたれのすかた 三ノ四十ウ／ねふつ 念仏 二ノ四二ウ（ママ） **36オ**」ねもつゆなかず 二ノ二オ／

奈

ない 為也 三ノ七十一オ／ないかしろに思 三ノ卅二オ／ない〳〵 内ゝ 一ノ卅一ウ／なにをかけにてか 一ノ十五ウ／何の人めにもしらす 一ノ廿三オ／なほさりのたのめ事 二ノ八オ／成なんずる 一ノ五十一オ **36ウ**」成はて 一ノ七十二オ／名をながす 三ノ六十三ウ／長濱 四ノ四ウ／中嶋 一ノ百三ウ／なかめいで 一ノ十ウ／長物語によふかい給 四ノ六十五オ／中のちきり 一ノ卅六ウ／なかはなる月 琵琶ノコト 一ノ百五オ／中やとりの所 四ノ四十五オ／なかばなる月を見るこゝち 一ノ十一ウ **37オ**」なだめ 二ノ廿八オ／なつかしく 一ノ五ウ／なづさひ 一ノ四ウ／ならひくるしうなけかしう 三ノ五十一オ／なんふかはし風のね 一ノ八十一ウ／なのる 名告事に云 三ノ十オ／なぐさみて 一ノ六オ／なやみわつらひて 一ノ卅二オ 一ノ七十二ウ／なまめきたる 一ノ十一オ／なけのおい人 一通りの老人 三ノ二オ **37ウ**」なけきのもと 二ノ十四ウ／なけのたはふれ 三ノ四十二オ／なこやか 三ノ廿三オ／なきてもわらひても 二ノ五十三ウ／なきなかすなみたのよとむ時なき 二ノ一ウ／なきになす 三ノ卅三ウ／なき入思ひさわぐ 三ノ四十九オ／なめ 并一ノ卅ウ／なみだくましく 一ノ廿オ／なん人そといはれ 一ノ四十七オ **38オ**」なみだもこほるゝこゝちし給 一ノ五ウ／なみの上 一ノ一オ／なみたがましう 四ノ七十六オ／なみたの海に身をしづめ 一ノ廿四オウ／なみたち 一ノ廿六ウ／浪の上なる舩 一ノ九十三ウ／なみたのさきにたちぬへき 三ノ五十八ウ／なみたを落しかけ 四ノ十六オ／なびかし 一ノ廿九ウ **38ウ**」

羅

らんじやうしがくしのゝしる 乱声シ楽シ 一ノ卅ウ／らんせいえんのあらしのと 一ノ十一ウ／らうだつもの 三ノ一ウ／老養の心さし 一ノ一オ／らうたかるへき 二ノ七ウ **39オ**」

武

むかい 向 一ノ廿三オ／昔今の事をかね 一ノ六十五オ／昔のためし 一ノ十五ウ／むかへいれ 一ノ卅ウ／昔の心のおほえ侍るにより 一ノ卅一オ／むつれまほしく 一ノ七オ／むづかし 四ノ七十五オ／むつかしく 一ノ卅一ウ／むつひさせ給 一ノ廿オ **39ウ**」むねのほのほ 三ノ五十七ウ／むねにおしかゝり給へ 四ノ七十二ウ／むね 事の— 三ノ八オ／むねは玉に似たり 三ノ六十二オ／むねつぶ〳〵となる心ち 三ノ四十六オ／むねのひまをあけ 一ノ九十一ウ／むねのひまをいつしかあけんと 四ノ九オ／むなしき空にみちぬはかり 二ノ十七オ／むなしき空にみちぬる心ち 二ノ五十八ウ／村雲立わたり 一ノ八ウ **40オ**」村雲の中より望月のさし出たる光 一ノ八十一オ／紫の唐のすそこの御几丁 一ノ十オ／紫の 雲 二ノ五十オ 四ノ十オ／むくい 一ノ九十五オ／むこん 四ノ八十オ／聟とり 三ノ卅三ウ／むせび 二ノ卅オ／むすめのきめ ミ歟 一ノ卅一オ／むすめ 一ノ廿七オ **40ウ**」

宇

うとくおもふ 一ノ六十五オウ／うちつけ 一ノ廿一オ／うちはさし出 団扇 一ノ十二オ／うちしきり 四ノ七オ／うちあづけ 四ノ十六オ／うちまきの音 散米 四ノ七十二オ／打なきわらひ 四ノ七十七オ／うちはさし 一ノ卅四オ／打おとろき 一ノ廿四ウ **41オ**」打ふし臥おき 四ノ六十二ウ／打なほり 一ノ八十オ／打思はせて出給へる 二ノ三十オ／打おもやせ 一ノ七十三オ／打ならめ 一ノ四十オ／うちまゐり 四ノ七十四オ／宇治川 一ノ六十ウ／うちき 三ノ廿八ウ／うちなかせ給 一ノ廿一ウ **41ウ**」うるはしき世界 一ノ廿八オ／うるはしく 一ノ五オ／うるはしく髪あげ 一ノ九ウ／うたゝね 三ノ四十二ウ／うたてけ

れば 同ノ同／うれへをやすめおもひをのふる 一ノ四ウ／うれへ 一ノ十八オ／うれたき 四ノ八十二オ／うれへとなり 一ノ四十九オ／うれしさなとはおろかなり 二ノ四オ **42オ**」うれしと思へるけしき 一ノ六ウ／うそふく 一ノ七ウ／うつはをさしかくし 団扇也 一ノ廿ウ／うつたへに 一ノ八十ウ／うつし色 二ノ二十ウ／うつくしげさ 一ノ七十三ウ／うつしとりたる 一ノ六十九ウ／うつゝ 一ノ廿四ウ／移りかしみし恋のころも 一ノ六十九オ／うつたへにこうておはすらんと思ひよらんやは 一ノ四十一オ **42ウ**」空穂の物語の内侍のかみのひきけんなんふ／かはしふの手も 一ノ八十一ウ／うらなひ申 一ノ卅七ウ／うらなく打そひたるけはひ 二ノ廿オ／うらゝか 四ノ七十八オ／生れまうて来たる 一ノ廿ウ 同ノ廿一オ／うこきなく 一ノ十六ウ／うごきなうもてないて 一ノ七十九オ／うきたゝよひ 三ノ六十五ウ／うきてはあらし 一ノ四十五ウ **43オ**」うきもうからぬためし 一ノ四十八ウ／うきをしりかほ 二ノ四十オ／梅の木のかきりありときく山 一ノ廿六オ／うみいで 生出 一ノ廿七オ／うみのりうわう 海龍王 一ノ十四オ 三ノ四ウ／うみ山をわけ道にける 一ノ三オウ／うみの中たゝみをしきて 一ノ十三ウ／海の中の龍王 同ノ同／うしろみ 三ノ六十四ウ／うもれいたく 一ノ廿九オ **43ウ**」薄むらさき 一ノ百二オ／薄やう 三ノ廿九オ／薄紫の唐綾のさしぬき 四ノ卅三ウ **44オ**」

為

ゐどころ 三ノ一ウ／ゐだけ 二ノ四十五オ 四ノ五十四ウ／居なほり 一ノ十二ウ／ゐくらし給 四ノ九ウ／ゐて渡らん 一ノ十三ウ 又同 **44ウ**」

乃

のろはれて 一ノ十六オ／のろひ 一ノ十五オ／のとまり 二ノ五十八ウ／のどやかなる御物語 一ノ廿オ／のどかになかめいで 一ノ十ウ／のちせの山 三ノ卅七ウ／後の名残 一ノ廿一ウ／後ゆくさきの事 四ノ四十一ウ／後のゆくさきのたとり 一ノ四十一ウ **45オ**」のりこほれ 車に也 三ノ四十八オ／のかれ所なかりける 一ノ四十八ウ／のかれかたき契 一ノ八十九オ／のたまひおほしく 一ノ十九ウ／野山のふもと 三ノ十七オウ／野山にまじり 四ノ一オ **45ウ**」

於

おいしらへたる聲 三ノ四十八オ／おいらかにおほどき 三ノ六十八オ／おはしまし所 一ノ三オ／おはして 一ノ十七オ／おほしまどひ 一ノ六オ／おほやけ 一ノ十五ウ 同ノ廿一オ／おほえ侍る 一ノ廿一オ／おほしめさん人 一ノ廿二ウ／おほきにおとろき 一ノ廿八ウ **46オ**」おほやけしう 四ノ六オ／おほしめしなさせ給ふ 一ノ廿一ウ／おほゆるかたさま 一ノ廿三オ／おほしかなしむ 一ノ十五ウ／大あね 一姉也 三ノ廿三ウ／おほよとにてもあらす 一ノ廿四ウ／おほかたのでうど 一ノ九オ／おほからんめり 一ノ廿八オ／おほむせひ 二ノ卅オ／おほゝれて 四ノ十三オ **46ウ**」おほえの王子のむすめのわう女の秋の月に／よそへられけん 四ノ五十九ウ／おほろけならす 一ノ四十二ウ 同ノ四十三オ／おほしの給 一ノ廿三オ／おほろけならて 一ノ十六ウ／おほろけ 一ノ百オ 同ノ八十七ウ／おほゐの物語 古物語也 四ノ卅七ウ／おほしより 一ノ廿九ウ／おほしけち 一ノ九十一オ／おほきやか 二ノ五十九オ **47オ**」おほしめいたる 三ノ六十三ウ／大井川 一ノ六十ウ／おほしまはし 二ノ二ウ／大きなる病いできて消入給 一ノ十六オ／大きなる山より瀧高くおち 一ノ九ウ／おほしくだかせつらん 二ノ卅六ウ／おぼえがほ 一ノ六ウ／おほきなるうれへ 一ノ七十九ウ／おほしめしあまる 一ノ十六ウ／おほきに 一ノ十五オウ **47ウ**」おとなひ 二ノ六十三ウ／おとなしく 一ノ十七オ／音きゝ 二ノ四十オ／おと姫君 三ノ六十六オ／おときゝも見くるしく 三ノ六十七ウ／おとなしくいつきする 一ノ五十二オ／おとろきぬる 一ノ廿四ウ／おとなしくおはします 一ノ十八オ 同ノ廿二ウ／おとろきあさむけしき 一ノ四十一ウ 同ノ四十二オ／おどろかしう 三ノ七十四オ **48オ**」おとろ〳〵しう 一ノ廿ウ／おとなしうものしき 三ノ卅九オ／およすけ給 一ノ十七ウ／およぶばかりの手 一ノ八十二オ／おそろしく 一ノ廿八オ／おそろしき人 一ノ十四ウ／おそはれ〳〵して 四ノ七十ウ／おそはれ 三ノ四十三ウ／おそろしうはるかに思ひ 一ノ一オ／おなし心 一ノ廿二ウ **48ウ**」御おほえもすくれて 一ノ六ウ／御しやうども 三ノ十七ウ／御はらへ 一ノ六十ウ／御ちきりかしこうもおほされて 一ノ十八ウ／御けうをおくる 供養 四ノ十二オ／おんみやうじ 陰陽師 一ノ卅七ウ／御足まゐらせさせ給 二ノ十八ウ／御そをたちかさね 四ノ五十六ウ／御ゐどころ 二ノ五十三オ／御やうにだにあらば 一ノ卅四ウ **49オ**」御色の白さははりせ（ママ）しむといふとも 一ノ十ウ／御ともにわたるはかせども 一ノ二オ／御顔のみ赤くなりわたり 三ノ四十六オ／御かほのやうだいほそくもあらす 一ノ十オ／おのれ 三ノ五ウ／おのれかあやしきいほり 一ノ卅オ／おくれ先たつ程のおもひ 四ノ廿ウ／おやがりはて 四ノ卅八オ／おこなひ 一ノ七十三オ／おきあかる事 一ノ卅二オ **49ウ**」おしかへし 一ノ四十二オ／おしたち花やかなる心 三ノ卅二オ／押花ノコト 一ノ九ウ／おしかへしかへして 一ノ四十六オ／おしこめ 二ノ卅オ／おしかへし 一ノ六十五ウ／おしこめて 四ノ四十二ウ／おひれたるさま 四ノ七十七ウ／おひたつ 成長也 一ノ十四ウ／おもひくつし侍りて 三ノ七十五ウ **50オ**」おもひをましむねのひまをあけ 一ノ九十一ウ／おもやせ 一ノ七十三オ／おもひくまなく 二ノ四ウ／おもひやる 三ノ十七ウ／おもひかきりたるすまひ 三ノ八オ／おもひやりなくけちかう見なして 一ノ廿四ウ／おもてふせ 三ノ八オ／おもかはり 二ノ卅六ウ／おもひしたゝめ 二ノ十三オ／おもしろう 一ノ六ウ **50ウ**」おもひなし 四ノ七十一ウ／おもしろく見渡さるゝタ 一ノ七オ／おもてさとあかみ 三ノ四十四オ／面あかむ心ち 二ノ廿二オ／おもひくま有て 四ノ廿七ウ／おもておこす 一ノ七十八ウ／おもひあはする 一ノ六十八ウ／おもひとりすましたる心 三ノ四十一オウ／思ふ方の風 一ノ一オ／おもひまかへ 一ノ廿五ウ **51オ**」思ひのつくへきよし 一ノ十五オ／思ひをしめ 四ノ廿オ／思ひかしこまり 三ノ五十三ウ／思ひしたゝめ 三ノ五十七オ／おもひやるなみた 一ノ廿四ウ／思かたの人 一ノ廿オ／おもかけはなれす 一ノ廿オ／面がはり 一ノ七十二ウ **51ウ**」

久

くろき墨染にやつれ 四ノ卅ウ／くばらせ給 三ノ十七ウ／くはせたりける物をくひて仙人に成たり（同ノ卅七オウ）／国のおもておこし 一ノ七十八ウ／国によりては一の大臣 一ノ廿九ウ／功徳のむくひ 三ノ十五オ／口といひあひ 二ノ四ウ／口すさひすんする 一ノ十一ウ／くち 戸口を云 一ノ六十五ウ **52オ**」口をしきゝは 三ノ二オ／口つき 哥のよみさまを云 二ノ廿九オ／口をしからぬあてばみたるさま 一ノ四十オ／朽木形のき丁のかたひら 三ノ十五ウ／くりかゝりて 髪ノコトニ云 四ノ卅一オ／くるしき事 一ノ廿九オ／車ぞひ 四ノ六十三オ／願などたてさせ 四ノ十三オ／くたいひれなとして 一ノ九ウ／くたいひれなとしたる人 一ノ七十九ウ **52ウ**」暮行秋のわかれ 一ノ百一ウ／くれかたうなかめわび 三ノ卅ウ／紅のなみたをなかし 二ノ卅一オ／呉竹をへたてゝ人の家はみゆる 三ノ一ウ／紅のくろむまてきよらなる 四ノ五十五オ／暮つかさ 二ノ廿七オ／くれなゐに匂ひわたりて 二ノ四十四ウ／くらがり渡り 三ノ卅八ウ／くらされて 一ノ七十二オ 四ノ卅ウ／くらゐきは 四ノ六オ **53オ**」くんしたる 四ノ七十六ウ／くんしにけり 一ノ百三オ／くんしおもやせ 一ノ四十七ウ／くゝめ 薬を— 二ノ二オ／くやしうおほえ 一ノ六オ／くま 物の— 一ノ四十ウ／ぐして 人ゝ— 四ノ廿四ウ／九百九拾九人の数に入て侍り来たりけん人 一ノ八十七オ／くびをいたきてさそひ 三ノ廿一ウ 同ノ廿二オ／くびたれて 一ノ六十二ウ **53ウ**」雲千里 一ノ二オ／雲の波けふりの波とはる日に尋（ママ）わたりて 一ノ五ウ／雲井の外の人 一ノ四十四ウ／雲のたゝすまひみちたりけるかをり 四ノ十オ／くせ 二ノ卅二オ／くすりのしるし 二ノ二オ／くすりをくゝめ 二ノ二オ／くせもなく 一ノ卅六オ **54オ**」

也

やはらか 一ノ十九オ／やり水 一ノ八十五オ／やらん なりにたる— 一ノ四十八オ／やんことなく引たて侍らん 一ノ廿二オ／やんことなけなる 一ノ廿九ウ／楊貴妃といふ昔のためし 一ノ十五ウ／楊貴妃王照君李夫人 三ノ六十一ウ／やうき妃なとのやうに時めき 三ノ五十九ウ／やうしう 唐の地名 一ノ十四ウ **54ウ**」やくなうおほえ侍る 二ノ六十一ウ／やゝ程へぬれは 一ノ七ウ／やゝましいとほしけれと 三ノ卅六オ／やゝもせは 三ノ廿四ウ／山かくれなとにかくろへて 四ノ八十一オ／山梨の花の心うきをおほし 二ノ九オ／山のふところ 四ノ五十オ／山鳥 一ノ六十三オ／山ふしだちて 三ノ十一オウ／山寺におもしろき家を作り 一ノ十五ウ **55オ**」山のふところ 四ノ七ウ 四ノ七十七ウ／山のすみ（角） 三ノ五ウ／山きは 一ノ十七ウ／山しな寺 四ノ七ウ／山ぶし 四ノ十九オ／山のかひ 一ノ六十八ウ／やまひをやめ 一ノ百二オ／山のかけぢ 三ノ七十ウ／病になりぬ 一ノ八オ／病もやみいのちもの ひ 一ノ廿九オ **55ウ**」山ふところ 三ノ廿三オ 四ノ卅一オ／山ふみしあるかん 三ノ六十七オ／やことなきもの 一ノ八十三オ／やことなく一ノ卅ウ／やみ 止 一ノ九十二ウ／やみなんず 病癒へしと也 四ノ七ウ／やせおとろへ（同ノ七十一オ 同ノ卅六ウ）／やすみどころ 一ノ七十八オ／やすき宮つかへ 四ノ廿七ウ／やすき空なく 二ノ五十九ウ **56オ**」

末

まいて 一ノ廿二ウ 同ノ廿三オ／まろおほしめしたる 四ノ廿七ウ／まろ 余 三ノ卅九オ 四ノ廿六ウ／まぼろし（四ノ九十九ウ）／まぼろしかけろふか 三ノ十オ／まへのせんざい 一ノ七オ／待とるほど 一ノ十二オ **56ウ**」まか〳〵しう 四ノ十八ウ／まかりかへる 二ノ二ウ／まかへ 一ノ廿五ウ／まよふ筋といふものなく 四ノ卅一オ／待聞おほさるらん 三ノ九ウ／松の木 一ノ卅九ウ／まつはかし 二ノ十九ウ／松の葉をあちはひにて過す 三ノ廿三オ／まなこはふよやうに似たりむねは玉に似たりとほめ（ママ） 三ノ六十二オ／まんなかんな人にすくれて文の道くらからす 三ノ五十九オ **57オ**」申こひける 一ノ十四オ／申おほせられ 一ノ五十二ウ／まうやうけん 唐の地名 一ノ十六オ／まゐりむかはまほし 二ノ四オ／枕より後より恋のせめくる心ち 二ノ十五オ／まぶり給 四ノ八十五オ／まことしう 四ノ四十ウ／まことや 一ノ百二オ 三ノ卅一オ／まことしきおもひ 一ノ卅五ウ／まことしきさえ 三ノ六十四オ **57ウ**」まきらはかし 一ノ九十九ウ／まぎらはかい給 三ノ四十四オ／まきばしら 四ノ四十四ウ／まゆものよりきたかく きは気（ケ）歟 一ノ十ウ／まみ 目見 二ノ十オ／ましらひ 二ノ卅六オ／舞の姿 一ノ七十七オ **58オ**」

計

けいめいし 四ノ六十二ウ／けはひ けしき也 一ノ十二オ／けはしげ 四ノ六十五ウ／けちて 一ノ九十一オ／けちかう 一ノ廿四ウ／けちめ 一ノ廿九オ／けからひ 四ノ十一オ 同ノ十八ウ／けんきう 二ノ六オ／けんさうにもていでがほ 三ノ四十七オ **58ウ**」けうやうの心 孝養 三ノ廿五オ／けうとくうたてあらん 二ノ四十五オ／けうそく 四ノ九ウ／けやけそれど 四ノ五ウ／けふりのなみ 一ノ五ウ／けふりの中にくらされて 四ノ卅ウ／けふもくれぬとはかりは此かねの音にきゝすこし 三ノ十六ウ／けさうならんかし 二ノ五オ／けさ打かけ 二ノ四十三ウ／けさ〳〵と見えたる 四ノ五十九オ **59オ**」けしやうする 三ノ卅四ウ／けしからす 二ノ九オ／けしきかはりて 一ノ五ウ／けしやうしつくろひ 四ノ五十六オ **59ウ**」

不

ふい給へる 四ノ十七オ／ふいに見給 三ノ卅二ウ／ふところにのみね給ふ 四ノ五十一ウ／ふとおほえ 一ノ四十一オ／藤かさねの御ぞ 三ノ廿八ウ／ふち川にも落いり 三ノ廿一オ／ふりつむ雪 一ノ廿六オ／ふりすて 四ノ十九ウ／ふりすてゝ 一ノ廿一オ **60オ**」ふりはく 三ノ六十九オ／ふりさけ月をみし 二ノ四十九オウ／ふりみがち 三ノ十九ウ／ふりかさなる 雪ノコト 四ノ卅三ウ／ふるまひ 一ノ十六ウ 同ノ廿七ウ／故郷のおもひ 一ノ廿四オ／ふるき心さすかにおほえ 一ノ二ウ／二重にうるはしうつゝみ 三ノ廿八ウ／二葉より 二ノ卅五ウ／ふくら 一ノ十オ **60ウ**」ふく風とふ鳥につけてとはせ給 三ノ七十五オ 七十八オウ／ふけうのつみ 不孝罪也 一ノ二十八オウ／ふげん講 二ノ五十三ウ／筆のさきら 一ノ百二オ／筆のなかれ誠しう 四ノ四十ウ／筆 三ノ廿九オ／ふさはしからぬ（四ノ七十四オウ 四ノ六十三オ）／ふさやか 髪に云 四ノ五十六オ／ふさ〳〵 二ノ四十オ／ふきちらすにほひ 一ノ廿六オ **61オ**」ふみつくり 一ノ四オ 三ノ六十四オ／ふみをずんじあへ

る 一ノ十一ウ／ふみつくりあそひをし給 一ノ八ウ／ふみ作り哥よむ 卅一オ／ふみ箱 一ノ九十八オ 二ノ五十九オ／ふみの事ともを見し 書物にてみし也 一ノ廿一オ／ふみの道くらからす 三ノ五十九ウ／ふみのつくりもいみしう 三ノ六十一オ／ふしき 不思議 三ノ七十八オ／ふししづみ 一ノ廿八ウ **61ウ**」ふしかはり 四ノ六十六オ／ふし 節 一ノ廿三ウ／ふしみの里 三ノ十八オ **62オ**」

古

ころも箱 三ノ廿八ウ／こぼれ あれ 三ノ廿六オ／こほうたう 唐の地名 一ノ一ウ／ことばきゝ心深う 三ノ五十九ウ／ことふれ 神に— 一ノ六十二オ／事のよろしき時 四ノ八十四ウ／ことつゞけたるいらへ 四ノ四十六ウ／琴をすさみて 一ノ卅五オ／こといみ 四ノ五十七オ **62ウ**」こと事なくおほしつゝけ 一ノ廿五オ／ことつて 一ノ七十三オ／事のむね 三ノ八オ／琴引て和歌を唱ひかくる事 三ノ七十七オ／こどねり 三ノ廿三ウ／詞 一ノ卅五オ／事のがれ 云のかれ也 一ノ七オ／ことはにはの給はで 一ノ五ウ／ことなく 一ノ七十ウ／ことしも見しりかほ 一ノ八十七ウ **63オ**」琴ひきあそひ 一ノ廿九オ／こと木はまじらず 一ノ廿六オ／子をもうみ出たらば 一ノ廿七オ／こかねなんと千々にもあまり 二ノ九ウ／こかれぬに 一ノ廿八ウ／こかはみなしといひし人 一ノ八十四オ／こたへたる 一ノ十二オ／是に並ふなかりけり 一ノ七十八ウ／去年の此ころ 一ノ廿五ウ 四ノ六オ／去年にことしは増り昨日よりけふは光をそふる 三ノ廿二ウ **63ウ**」五年か程筑紫にすこして 一ノ十四オ／子なとのあらんやう 子の如く也 四ノ八オ／御覧じさせ 一ノ三十オ／今生のおもひ 三ノ廿四ウ／こんじやうをぬりかへしたるやう 一ノ九オ／かうやうけんに住けるはゝかん 一ノ四オ／此世もかのよも 四ノ八ウ／此花ひらきて 後と口すさむ 一ノ十一ウ／此程 一ノ七十二オ／此よの人に成はて 一ノ廿八オ **64オ**」此ころ 一ノ廿六オ／極楽のむかへ有て雲の上にのる 三ノ四十一ウ／ごや起しておこなひ給 二ノ五十四ウ／こまかなる有様 二ノ二ウ／駒打はやめて 四ノ卅五ウ 同ノ六オ／こま〳〵と 一ノ四十五ウ／こゝもそすこしおくれたりけれとみゆる所なり 四ノ十五オ／こゝの品のうへにのほり 四ノ十オ／九品の聖 一ノ廿ウ／こゝしうらうたかるへき 二ノ七ウ **64ウ**」心ちおこたり 一卅六オ（ママ）／心まさり 三ノ七十七ウ／心もくだけ 四ノ廿一ウ／心おこせる舞のすがた 一ノ七十七オ／心をいれて思へば 一ノ六十六ウ／心をつくりてかゝせ奉る 一ノ六オ／心にしみ 一ノ八十八オ／心安くおほさるゝ 一ノ十九オ／心増りして 三ノ四十九オ／心はかなきめのと 三ノ四オ **65オ**」心ほそけれど 一ノ廿五ウ／心にかゝり 四ノ七オ／心深うにごらさらんさま 二ノ四十六オ／心からしらぬ世界にあけくらす 一ノ廿五ウ／心もきもまとひうする心ち 三ノ五十六ウ／心の行かぎり 二ノ卅ウ／心のかよふにや 一ノ廿オ／心のどか 一ノ六ウ／心たかひて 一ノ卅七オ／心のうちのすゝしけもなき 一ノ六十一ウ **65ウ**」心ばせある人かくいふ 一ノ七オ／心しりの人 一ノ七十オウ／心さわき 四ノ七十三オ／心も空に乱れ 一ノ四十一ウ／心にかけて 一ノ十七ウ／心みに立かけたれはうちはさし出 云か 一ノ十二オ／心もとなし 二ノ四ウ／心まよひ （二ノ四十六オウ）／心をひとつになして 一ノ十五オウ／心にくけなく 三ノ卅ウ **66オ**」心やふらじ 一ノ卅五オ／こぎいで 舩— 二ノ一オ／後しやうの思ひ 四ノ四十三オ／ごせういのらんと思ふ 三ノ廿五ウ／ごしんまゐり給へ 四ノ十ウ／聲あはせてずんじ 一ノ十一ウ／聲たうとき僧 四ノ八オ／聲もしのはすなきつくし 二ノ四十ウ／恋のころも 一ノ六十九オ／こひの形見 一ノ六十六ウ **66ウ**」こめかしう 二ノ廿九オ／恋のみたれ 二ノ十三ウ／小姫君 四ノ五十七ウ／こもん 一ノ廿二ウ／

江

えいくわもようにたはふれ 四ノ十二オ／えほしして かなつえつきて 一ノ卅九ウ **67オ**」えたへ給はす 一ノ六オ／えらひの杖 一ノ十三オ／枝さしかはすなよ竹 四ノ五十四オ／えんとおほしきかた 一ノ四十ウ／えん 錦をしける— 一ノ十オ／えさらぬ事ども 三ノ十八オ／えもいはざるへき事 一ノ廿七ウ／

天67ウ」

手をさへ書すくり給 四ノ四十ウ 同ノ四十一オ／手ならひ 三ノ廿七オ／てらのそう 一ノ卅六ウ／てんふ 一ノ二ウ／てうどなをせさせ 四ノ卅九オ／てうど 一ノ九オ／手あたりけはひ 二ノ十九ウ／手あたり 二ノ十八ウ／弟子 三ノ十三オ **68オ**」

安

あいしうのほんのう 三ノ五ウ／あいきやうのこほるはかりにゝほへる 一ノ四オ／あはれいかに 二ノ卅ウ／あはれみをたれ 四ノ十四ウ／あはれにゆかしく 一ノ十九ウ／あはれにかなし 一ノ三ウ／あばれ 三ノ十五ウ／あはめうらみ 二ノ四十オ／あばめ給 二ノ八ウ **68ウ**」あばらや 三ノ廿三オ／あへかし 可逢也 一ノ六十五ウ／あえて 一ノ四十六ウ／あとはかりならぬ 三ノ七十二ウ／あとゝめ給はじ 四ノ廿三ウ／あちきなく 一ノ十五ウ／ありとある 一ノ廿七オ／ありつき 二ノ廿三オ 同ノ五十八ウ／ありつかぬ 三ノ四十五ウ／ありのまゝ 二ノ卅二オ 同ノ四十三オ 同ノ四十五ウ **69オ**」ありなしをしらるゝ 三ノ十九オ／ありわづらひ 世を— 四ノ廿四オ／ありにくゝ 一ノ四十七ウ 同ノ四十八オ／あるゝなみ 二ノ卅一ウ／あるかきりの人 一ノ八ウ／あるゝかん 三ノ六十七オ／あるましく 一ノ十二オ／あるにまかせてすへき 三ノ五十一ウ／あをやき 四ノ四十六オ／青朽葉 二ノ廿八オ **69ウ**」青葉に成にし花の梢 三ノ一オ／あか奉り 三ノ四十二オ／あかぬよの人 一ノ八十三ウ／あかりての世 三ノ六十一ウ／赤む おもて— 二ノ廿二オ／あたにはせじ 一ノ九十七ウ／あたゝまり行 四ノ十五ウ／あたりまてにほひて 一ノ十ウ／あたらしうつらし 三ノ六十六オ／荒こほれ 三ノ廿六オ **70オ**」あそびをして 一ノ四オ／遊ばし 二ノ六十六オ／遊ばしおこつり聞え 二ノ四十三ウ／あそびの道 一ノ六十二ウ／あそひよくおほさるゝ 一ノ六ウ／あつかはれ過す 四ノ五十二ウ／あつかひくさ 三ノ卅一オ／あつくへきもの 二ノ三オ／あつかはれし 一ノ七十オ／あつかりの若君 三ノ六十八オ **70ウ**」あなたうと 一ノ八十オ／あないきこしめさず 一ノ九十九オ／あら〳〵しき男 二ノ二オ／あらぬ御さま 一ノ廿五ウ／あらはかい給 二ノ八オ 同ノ十オウ／あらはに見つる 一ノ廿七オ／あらたにあはれなる事 四ノ十オ／あらえひす 四ノ八十六オ／あんない申

一ノ卅オ　四ノ五十八オ／あんへい事　一ノ九十ウ　**71オ**」あんない　一ノ四十七オ　三ノ三オ／あぐら　一ノ六十一オ／あぐらともたてなめて　一ノ卅ウ／あくる日　明日　一ノ二ウ／あやごろも　三ノ廿八ウ／あやか　四ノ八十四ウ／あやめ　四ノ六十九オ　同ノウ／尼姫君　一ノ四十五オ　二ノ五十七ウ／あまくたりけんをとめのすかた　一ノ十一オウ／尼の一向に髪剃る事　三ノ五ウ　**71ウ**」尼むすめ　四ノ五オ／あまてる月　一ノ四十オ／あけくらす　明シ暮ス也　一ノ廿五ウ／あけに成て　赤面　四ノ四十二オ／あけかたうくらしがたき　四ノ八十五ウ／扇に顔はかりをまきらはし　四ノ四十五ウ／近江の水うみ　一ノ一ウ／扇をならし　三ノ卅六オ／扇にまきらはして少しそはみ給　四ノ五十九オ／あえかにそびえてあてやかに　二ノ廿ウ　**72オ**」あてはみたるさま　一ノ四十オ／あてやか　二ノ廿ウ／あてはか　三ノ十四オ／浅からすげ　二ノ卅七オ／あさのしやうぞく　三ノ十七オ／朝なゆふな　一ノ百二ウ／朝かほのけしやういみしくしたらん色あひ　三ノ四十一オ／あざむ　おどろき　一ノ四十二オ／朝なぎ　二ノ十四オ／あざみ　三ノ四十八オ　同ノウ　**72ウ**」朝ほらけ　一ノ六十八オ／あさ〳〵とうつくしけにわけめかんさしひたひのきは　四ノ十五オ／秋のたのみをつむへきみくら　三（ママ）廿六オ／あきれいたきまで　三ノ廿六ウ／あきれおどろき　一ノ十三オ／秋のわかれ　一ノ百一ウ／あきれいたく　四ノ五十ウ／あゆる　乳―　一ノ七十ウ／あめのした　四ノ十九ウ／天にあらはひよくの鳥とならん地にあら　**73オ**」はれんりの枝とならん　一ノ六十二ウ　同ノ三オ／あみた経　四ノ八オ／あみた仏　四ノ九ウ／あしもおさへ給へかし　足ヲ摩スル也　二ノ十八ウ／足うたせよ　二ノ廿二オ／足なとうちすさませ　三ノ四十三オ／あしまゝにえまうて給はね　三ノ五十七オ／あひむかふ　三ノ五十三ウ／あひし　愛子　一ノ卅三オ　**73ウ**」

佐

さいまくれたるやう　二ノ七ウ／さいご　最期　四ノ十八オ　同ノ廿二ウ／さはれ　一ノ七十一ウ／さはらなる程　髪ノコトニ云　四ノ五十五オ／さべいひま　四ノ六十九ウ／さとし　一ノ四十二オ／さとがち　一ノ七オ／さりのくやしてまひをしてふみをつくり　一ノ卅ウ／さりやいかならん　一ノ卅一オ　**74オ**」さるへくてうまれ給へる人　一ノ廿八オ／さるへき物のくまに立かくれてみれは　一ノ九オ／さわく心をわりなくしめて（つ）　一ノ九十七オ／さかしきかた　一ノ六十二ウ／さかり　若葉の―　一ノ八オ／さたまり　縁付也　三ノ卅一ウ／さだに　然（サ）　一ノ廿七ウ／さためけり　云定也　講也　一ノ四オ／さぞかしと　一ノ六オ／さそはせ給はん　誘引也　三ノ十八ウ　**74ウ**」さそはれいり　一ノ十七ウ／さそひかくし　三ノ卅九ウ／さそやけなり　四ノ卅八ウ／さらの人　一ノ廿ウ／さらぼひ　三ノ二オ／さんいうの春の夢　三ノ五十六オ／三郎にあたる中納言　一ノ卅一ウ／さんいふといふ所　一ノ卅八オ／さんいう　一ノ八十三オ／ざうがんの御はかま　三ノ廿八ウ　**75オ**」さうは道とほし雲千里　一ノ二オ／さうじおほせられ　四ノ三オウ／さうじみ　三ノ七十七ウ／さうにん相人　四ノ三オ／さうがんの木丁　一ノ七十九ウ／さうそく　二ノ九オ／さやうの事　一ノ廿七ウ／さまよふなみだ　一ノ八十四ウ／さふらはせ　さふらはせよ云に同　三ノ十七ウ／さふらひつ　二ノ八オ　**75ウ**」さえすぐれ　才　一ノ十三オ／さえさとりの深く　三ノ五十九オ／杯まゐりてさし給はする　一ノ六十三オ／さきにたつなみた　二ノ五十八オ／さきら　一ノ百二オ／さきの世の子にて侍りき　一ノ廿ウ／さし出て見おくる　一ノ六十八オ／さしあたりて　一ノ六オ　一ノ九十二ウ／さしてのけしき　二ノ四十ウ／さし分たりし月影　二ノ五十一オ　**76オ**」さし　杯―　一ノ六十三オ／さしはやし舩―　二ノ三ウ／さし過たる口つき　二ノ廿九オ／さもあれやと心つよくおもひ　一ノ九十四ウ／さもありとおほしき　四ノ七ウ／させまろといひけるもの　ものは人ヲ云　一ノ十三ウ／さすがに　一ノ二ウ／さすらひ給　四ノ十九オ／さすらへ　一ノ九十二ウ　**76ウ**」

畿

きはの人　二ノ廿四ウ／きはだかく　二ノ七ウ／きほひちり　四ノ十九オ／木丁　一ノ十オ／きりふのをか　三ノ七十八オ／清水　四ノ八十三オ／きよらかにて　三ノ七十ウ／きよら（二ノ五十二オ　二ノ卅五ウ）／きよらけ　四ノ五十五オ　同ノ五十七オ　**77オ**」きよらか　二ノ二オ／きようじあへる　三ノ廿八オ／きよまはらせ給　二ノ四十オ／清めしよきおまし　三ノ二オ／きむかふ　来向　二ノ三オ／きんのうるしなんとのやうにかけみゆ／はかりつや〳〵として　四ノ十七オ／きん引給ふ　一ノ十オ／きくさのなひき水のながれ　九（ママ）ノ九十五ウ／京へのほり　二ノ三ウ　**77ウ**」京のひはたの色　一ノ九オ／きこしめさず　二ノ十一オ／聞えいるくせのつれ　一ノ卅七オ／きこえかはひ　三ノ十六オ／きこしめし　一ノ卅七オ／きえ入給　一ノ十六オ／きえとまり　三ノ一オ／きゝやあはせられん　三ノ四十三ウ／きしかはし　二ノ五十九ウ／きゝあざみ　三ノ四十八ウ　**78オ**」聞しらぬ詞がち　一ノ卅四ウ　同ノ五オ／聞かはい　かはし也　一ノ九十一オ／きゝくるしう　一ノ七十六ウ／聞どころおほく　四ノ卅四ウ／聞かはす　一ノ九十三オ／聞いれおもひしりかほ　四ノ六ウ／きゝあんないせさせうかゞふ　四ノ八十二オウ／聞いれ　二ノ卅オ／きゝかよはす　三ノ七ウ／きひしくさかしきやうなれと　一ノ十六オ　**78ウ**」きびしながら　一ノ九十九オ／きひしく所せき　一ノ十六ウ／きびしうこもりゐ　四ノ七十四オ／きも消ておもはぬなく膽　一ノ八オ／きもきえまどひ　一ノ五ウ　**79オ**」

由

ゆかし　一ノ六十七オ／ゆるしとらせて　一ノ九十三オ／ゆるしてはや　三ノ六十四ウ／ゆるゝか　三ノ十九ウ／ゆかにおしかゝり　一ノ卅五オ／ゆかりむつひ　二ノ卅五ウ／ゆたかなるたつきもとめかほ　三ノ四十六ウ／ゆなとまゐらせ給へど　四ノ十六ウ／ゆらめきかゝり　二ノ四十ウ　**79ウ**」ゆら〳〵とかゝり　髪はまゆの程に―　二ノ廿七オ／遺言（ユヰコン）　四ノ十八オ／ゆくて　二ノ廿六オ／ゆく手にかけ　二ノ四十二オ／ゆくりなく　二ノ廿六オ　四ノ十三ウ／ゆけども〳〵　一ノ廿六ウ／夕日のかげになる程　四ノ九ウ／ゆふくれかた　三ノ十六ウ／夕つかた　三ノ五十七ウ／ゆきつきしまゝに　二ノ十九ウ　**80オ**」ゆきかへり　一ノ七十一ウ　同ノ百ウ／ゆきかゝり　一ノ二十七ウ／雪の山　四ノ卅五ウ／夢の何そとむねつふれて　三ノ七オ／夢にもなき　二ノ四十一オ／ゆめ〳〵よ　二ノ廿一オ／夢まほろしかけろふか　三ノ十オ／夢を見あはする　一ノ九十二オ　**80ウ**」

女

めいぼくありて　一ノ五十一オ／めを見つくす　四ノ廿オ／めだつところ　二ノ廿一オ／めつらし事　一ノ八十二オ／めつらかにいみじ　一ノ八ウ／めつらかにあらたにあはれなる事　四ノ十オ／珍らしく　一ノ廿七オ／珍らしき事をつくさん　一ノ卅二オ／珍らしがる事かきりもなし　一ノ八ウ　**81オ**」めんぼく　一ノ廿二オ／めうせうこんの御ちぎり　二ノ五十三ウ／めくらひ　三ノ十一ウ／めひさきて（目）　二ノ四十三ウ／めもたらす　四ノ五十六ウ／めもあや　一ノ廿六ウ　**81ウ**」

美

見いでゝ　見出　一ノ卅一オ　同ノ卅四オ／見とゞめ　三ノ四十四オ／道の空なみのうへ　一ノ九十二ウ／道の空　一ノ九十四オ／み丁御木丁　二ノ九オ／見るめ有さま　四ノ八十オ／見るはみるかは　一ノ九十九ウ／身をかへて　一ノ七十二オ　二ノ廿五オ／身をかそへてはかり　二ノ卅ウ　**82オ**」身をなけきにおほしたる人　三ノ十三ウ／見わたさるゝゆふべ　一ノ七オ／見渡しなる峯　四ノ十八オ／みかさ山　二ノ十六ウ／みがきたて　一ノ卅ウ／みよしの　四ノ四十オ／みよしのゝ山　三ノ一ウ／みよしのといふ所　よしのゝあなたに―　二ノ六十四オ／みだれかはしく　一ノ九十九オ　同ノ百一オ／御堂のくち　一ノ六十五ウ　**82ウ**」みたれ心ち　三ノ四十二オ／みたれかはしう　二ノ五十二ウ／みそき河かはせの波にことふれて　一ノ六十二オ／みつの濱松　一ノ廿五オ／見つき　見馴也　一ノ八十五ウ／見つきぬ世界　一ノ四十七ウ／水の色石のたゝすまひ　一ノ五オ／みづはくむ　丁ナシ／水うみ　一ノ一オ／水のはた　一ノ卅九オ　**83オ**」みつばよつはの殿つくり　一ノ十六オ／みづ浅みに成にたる世中　二ノ四十四オ／みつから　一ノ七ウ／峯（ミネ）にかたかけて　三ノ十二オ／峯（ミネ）高く谷深くはけしき事かきりなし　一ノ一ウ／峯（ミネ）にもをにも　一ノ六十八オ／見なつく　四ノ六十二ウ／見（習）ならひとむ（留）　一ノ四オウ／南おもてだつかた　三ノ八ウ／みなはしといひける人　一ノ十三ウ　**83ウ**」皆人心をひとつになして　一ノ十五オウ／見奉し給　一ノ十ウ／身のさえすぐれ　一ノ十三オ／乱らかし　二ノ十三オ／身のさえ　二ノ九ウ／御ぐしときくださせ給　四ノ廿九オ／宮つくりして　一ノ四ウ／みやうがう　三ノ十五ウ／見えしられ　二ノ七オ／見えなつく　四ノ七十オ　**84オ**」見えむかひ　一ノ廿三オ　同ノ五十一ウ／見えきかれて　一ノ七十一ウ／見え渡さるゝ　三ノ一ウ／見あひ　三ノ卅オ／見あつかはまほしう　二ノ卅八オ／見あはする　一ノ九十二オ／見さわく　一ノ一ウ／耳につきて　一ノ十二ウ　二ノ十六ウ／耳はゞかりあれは　四ノ四十オ／耳なれ　四ノ廿一オ　**84ウ**」耳ちかに松風の吹あはせたる　三ノ十二ウ／見しよの人　一ノ廿四オ／見しりかほ　一ノ八十七ウ／見もしらすかほ　一ノ八十四オウ／みすどもかけわたし　一ノ九オ　**85オ**」

之

白妙に深つむ雪　一ノ廿六オ／柴垣しわたし　三ノ十八オ／しほるゝあま　一ノ廿四ウ／しほたれ　一ノ六十三オ／しほじみて　二ノ八オ／しほじみたる人　三ノ四十五ウ／しほれなえばみ　三ノ廿二オ／しりめにかけ　二ノ四十八オ／しりかほ　二ノ四十オ　**85ウ**」しるくきゝて　一ノ二オ／しをりていりしおく山　一ノ六十六オ／しわづらひ　四ノ八オ二ウ（ママ）／しよくさんといふ山寺に面白き家をつくり　一ノ十五ウ／しそく　親族　一ノ八十三オ／し（子孫）そんの末　一ノ十三オ／しつのをたまき　三ノ卅五ウ／しつらひ　一ノ三オ／しづみふし　一ノ卅一オ／しなの　女房の名　四ノ六十九ウ　**86オ**」しなのみやこ　三ノ廿ウ／しらぬ国の人　一ノ廿一オ／しらせあつけん　四ノ廿七オ／しらぬ世界　一ノ廿五ウ／しら山　白キ山ヲ云　一ノ廿六オ／しう　主人　一ノ四十一オ／秋風楽　一ノ七十八オ／忍草もつみ出けるよと　二ノ十四ウ／しくものなく　一ノ八ウ／時雨とき〳〵打ちそゝく　同ノ同　**86ウ**」装束よるのひるのと　二ノ九オ／障子に木丁そへ　二ノ卅二ウ／しやうそきたる女房　一ノ九ウ／しやうのこと　一ノ百四オ／しやうの笛　二ノ十八オ／上すめき　四ノ四十ウ／しやうじ　四ノ七十四オ　四ノ七十五オ／しやうじ　精進　四ノ十二オ／しやうぞき　装束　一ノ五オ／しやうきうになかめけん人　一ノ廿二ウ　**87オ**」しやうをへたてかたちをかへ　一ノ五ウ／上手の書たりしからゑ　一ノ十オ／しぶり　四ノ四十五ウ／しぶる　三ノ四十二ウ／十よにち　四ノ七オ／十四といふとし　一ノ十四ウ／しきりにめし　二ノ四十七オ／しきし　三ノ廿九オ／朱ぬりたるさま　一ノ九オ／しゆくせ　宿世　四ノ十一ウ　**87ウ**」しめ〳〵と　一ノ六十四ウ／しゆいふつたう　思惟佛道　四ノ卅七ウ／しめりおとなしく　一ノ五十二オ／しみ通　一ノ六十六ウ／しみかへり　一ノ九十六オ／四尺のき丁ふたよろひ　三ノ廿八オ／下（シモ）ほうし　三ノ十七オ／下づかへ　二ノ九オ／しも法師　三ノ十三オ／しする奉り　一ノ五十オ　**88オ**」

恵

ゑしやくすくなき所　一ノ五十二ウ／繪ものがたり　三ノ廿七オ　同ノ廿九オ　**88ウ**」

比

未やう宮　一ノ八十八オ／未央宮をいふ所は日本にとりてはれいせい院／なといふ所の様なり　一ノ七十五ウ／ひろごして　三ノ五十三ウ／ひはたの色　一ノ九オ／ひはにとされといふ手　一ノ八十四ウ／琵琶の聲　一ノ四十オ／日にかゝやく　三ノ六十ウ／ひほ長やかに　一ノ十オ　**89オ**」ひほときわたす　一ノ七十八オ／人かけもなし　一ノ四十六ウ／一かたならす（ママ）（同ノ八十五ウ　四ノ八十四オ　同ノ五十六ウ）／ひとめ　一目　一ノ卅六ウ／ひとめ見くるしう（ママ）ゝ／人ま　一ノ九十五ウ／人のおもはす　一ノ百オ／人めには其事をおほえかほにもかけ給はす　一ノ六ウ／人うけれは　一ノ七十一ウ／ひとかへり　三ノ七十七ウ　**89ウ**」ひとゝころ　一ノ廿二ウ／人の身をうけ　二ノ六十二ウ／人からなりけれはにや　一ノ十一オ／人やりならす　一ノ百ウ／ひとりむすめ　四ノ五十二ウ／人しれすなみだおちて　四ノ十三オ／一筋のおもひ　四ノ六十一オ／人かろかなるおもひ　四ノ廿四オ／人わろくおもひわひにたる心　四ノ四十一ウ／ひる寝　三ノ廿四ウ　**90オ**」ひかるやうにみゆる　一ノ三オ／光をはなつ心ち　四ノ五十六ウ／ひが事せられぬへく　二ノ五十オ／ひかもの　二ノ卅四オ／ひかされて　一ノ廿ウ／光をはなつ　一ノ七十七ウ／ひたひ髪のたて　二ノ廿一オ　同ノ四十四ウ／ひたふるの山ふし　三ノ十一オウ／ひたひ髪とよりかけ　一ノ十一オ／ひたひのきは　かんざし―　四ノ十五オ　**90ウ**」ひたりみぎに　二ノ五十七ウ／ひたふる　一ノ百一ウ／ひたぶるにかしらをおろし　三ノ五ウ／雛遊び　二ノ五十二オ／ひなのみやこ

三ノ廿ウ／ひらはり打おとし 一ノ六十一ウ／ひらきのいしかなびかさらん 四ノ六十八ウ／びんつらゆひたるわらはのうちは持たる 一ノ卅九ウ／ひんつらゆひ 一ノ五オ／日本のやうにうこきなくはあらさりけれは 一ノ十六ウ **91オ**」日本のかため 一ノ九十四ウ／日のもとの中納言 一ノ廿三ウ／日のもとのみつの 濱松 一ノ廿五オ／日のもとの山より出ん月 一ノ百四ウ／日本のでんふわたいて関をいるゝ 一ノ二ウ／日本の人は髪はたゝ打たれ 一ノ二ウ（ママ）／ひぐらし 四ノ八十六オ／ひやくふんの外もかをるはかり 百歩ノ外 二ノ四十七ウ／ひやくぶんの外もとほるはかり 一ノ六十六ウ／ひまをあけ 一ノ九十一ウ **91ウ**」ひまく 一ノ五十三オ／彦星の光 二ノ十六オ／ひきたて 一ノ廿二オ／ひきつくろひて 一ノ二ウ／ひめもす 三ノ十五オ／ひじりつくらず 四ノ六十三ウ／ひしり 僧也 一ノ十九ウ／ひゝに 一ノ五十ウ／ひすいなといふらんやうにひろこりかゝりて 二ノ廿ウ **92オ**」

毛

もろこしのうんれいといふ所 一ノ一オ／もとゝして 覚を一 二ノ十九ウ／もとき 二ノ廿五ウ／もとめはたさん 四ノ六十オ／もとは何人の 三ノ三ウ／もちひ 一ノ四十九ウ／もちひ鏡 四ノ五十七ウ／もよほす 三ノ十六ウ／唐と日本の行かひ絶て久しく成し事 二ノ六十二オ **92ウ**」物ゝしうきよらけ 四ノ五十七オ／物うちの給へらんけしき 一ノ廿三ウ 同ノ四オ／物うちの給へるけはひ日本の人にいさゝかもたかはす 一ノ十九オ／ものゝたくひのおはしますなるやうに 二ノ六十一ウ／ものしき 三ノ卅九オ／物いひ有様 （三ノ六十七オ）／物をいませ給 一ノ卅七ウ／物よりきたかく きは気也（ケ） 一ノ十ウ／物ことにあたりかたう 三ノ四十一オ／物しう思ふ 四ノ卅九ウ **93オ**」物遠くおはする 一ノ十九ウ／物めでする人 二ノ十五オ／物のぐ 四ノ三十四ウ／物はぢ 一ノ七十九オ／物のあやめ見しり 三ノ卅ウ／物めでをし 一ノ八十五ウ 四ノ六オ／物いみ 一ノ四十五オ／物のくま 一ノ四十ウ／物くるはしき 三ノ四十四オ／物のくまに立かくれ 一ノ五オ **93ウ**」もてないて 一ノ七十九オ／もて出がほ 三ノ四十七オ／もてはなれ 一ノ四十三オ／もてはやされ 一ノ六十三ウ／もみちの賀 一ノ廿八ウ／もしやう 四ノ六十八オ／文字のつくり筆のさきら 一ノ百二オ／もし 若 一ノ廿五オ／もゝしきのうち 一ノ十七ウ 同ノ十八ウ／桃の木のあらん所迄とて行けれはゆけとも**く** **94オ**」つきせさりける 一ノ廿六ウ／桃の木 一ノ廿六ウ **94ウ**」

世

西王母東ほうさく 一ノ六十二オ／せちに 一ノ卅一オ／せん人 仙人 一ノ廿七オ／せんほう 瀛法 四ノ八オ／せんざい 一ノ七オ／千日のしやうじ 四ノ七十三ウ／せんじくだりて 一ノ三ウ／せうそこ 一ノ六十七オ／少将とつけ給て 名付也 四ノ五十一ウ **95オ**」せうそく 一ノ五オ 一ノ四十五オ／せきやるかたなく 一ノ廿四ウ／せめて 一ノ廿六ウ **95ウ**」

寸

すはうのすそごのぞうがんのき丁 一ノ七十九ウ／すほうときやう 一ノ廿八ウ／すべり入てさくり給へば 四ノ十三ウ／筋もいでき 一ノ四十六オ／すぢかひ 四ノ卅八オ／ずりやう 受領 二ノ十八オ／すがり引よせ 三ノ四十三ウ／すかくしう 一ノ九十一ウ／すたれあげていみしうのりこぼれ 三ノ四十八オ **96オ**」すたれたゝみ 三ノ廿八ウ／すたれを巻あげ 一ノ七オ／すそごのさうがんのき丁 一ノ七十九ウ／すなかち 三ノ二ウ／すんじて 一ノ七ウ／ずんじ 二ノ廿七オ／すむじ 一ノ六十三オ／すんずる也 一ノ十一ウ／すのこのなげし 三ノ四十ウ／すくれたる 一ノ八オ **96ウ**」すくれ 一ノ十四ウ 同ノ廿八ウ／すぐり 四ノ四十ウ／すくせ契 三ノ廿一オ 同ノ廿二オ／すまひ 三ノ十三ウ／すまひの深き浅きにもよらじ 四ノ卅七オ／すまひがら 四ノ卅七ウ／すごうさひしき 三ノ十二ウ／すごして 過也 一ノ十四オ／すきてものめてする人 二ノ十五オ／墨付筆のなかれ 四ノ四十ウ **97オ**」墨ふで 三ノ廿九オ／すみやか 一ノ九十二オ／住馴給ふまきばしら 四ノ四十四ウ／する奉る 一ノ三オ／すゝろなる山ごもり 四ノ四十八オ／すゞろ 一ノ廿二オ 同ノ卅三オ／ずゞ 三ノ四十一オ／すゝ物のぐ 念珠仏具也 四ノ卅四ウ **97ウ**」

【注】

（1）『平安末期物語攷』（勉誠社　平9）。後に『浜松中納言物語論考』（和泉書院　平18）所収。以下、特に断りがない場合は同論文を引く。

（2）以下、本文系統は松尾聰氏による分類（「浜松中納言物語伝本考―本文批評の方法の実例を示すための―」『学習院大学研究年報』第1号　昭29・12）と池田利夫氏による分類（「浜松中納言物語伝本系統試論」『鶴見女子大学紀要』第10号　昭42・12）を併記する。

（3）D類／乙類第三種本に依拠したとわかる例としては、例えば「押花ノコト　一ノ九ウ」（50オ）・「花のいとおもしろきおして遊はるゝなるへし　一ノ九ウ」（7ウ）がある。現存諸本には「押花」の語は存しない。中西氏は『目録』には「尼の一向に髪剃る事」「琴引て和歌を唱ひかくる事」「唐と日本の行かひ絶て久しく成し事」といった、「物語本文を直接に引くのではなく、場面や事柄を知的興味から総括して掲出しているもの」があると指摘されている。これらはどれも「…事」と場面を要約するかたちである。同様に「押花ノコト」も何らかの場面を指すのかと思ったが、押花を想起させるような場面はない。そこで『校本』を見直すと、D類／乙類第三種本（＝本稿第三節に記した①～④）に「いろくうつろひわたれる木ゝのはなのいとおもしろきをしてあそはるゝなるへし」（巻一・一九頁）とある。この箇所は、十月一日の紅葉賀の翌日、主人公中納言が河陽県にいる第三皇子を訪問する場面である。中納言は隠れて、庭にいる第三皇子や女房達の様子を眺めている。D類／乙類第三種本系の本文を読んだ与清はこの箇所を、第三皇子や女房達が「木々の花のい

とおもしろき」を「押して（をして・おして）」「遊はるゝなるべし」と読解したらしい。

（4）「大阪府立中之島図書館蔵中西文庫本『浜松中納言物語』について」（『広島大学大学院文学研究科論集』第72巻普通号　平24・12）。

（5）『校本』使用の松本市立図書館蔵春廼屋旧蔵本（四巻四冊）は内題「濱松中納言物語一（～四）」。臼田甚五郎氏「新資料の紹介」（『国文学論究』第4号　昭12・2）は印「有明里御民春廼屋」「まつをかのしるし」等から「南安曇野郡有明村に住した本居派の国学者某氏の蔵書であった」とされた。稿者にはこの確認ができていないが、注（4）拙稿にて書写奥書「文政元年寅五月以古写本令校合畢　長廣」より、大平の門人で京に住んだ大橋長廣（天明八年〈一七八八〉～嘉永四年〈一八五一〉）の書写かと推定している。

（6）実見及びマイクロフィルム紙焼写真による。

（7）早稲田大学図書館蔵自筆本（早稲田大学図書館古典籍データベースにて公開）と松本智子氏「早稲田大学図書館蔵『松屋蔵書目録』翻刻」（『早稲田大学図書館紀要』第57号　平22・3）による。

付記

本稿は、平成二十七年度科学研究費補助金若手研究（B）研究課題番号25770085「書入を手がかりとした『浜松中納言物語』本文生成過程の研究」による研究成果の一部である。